

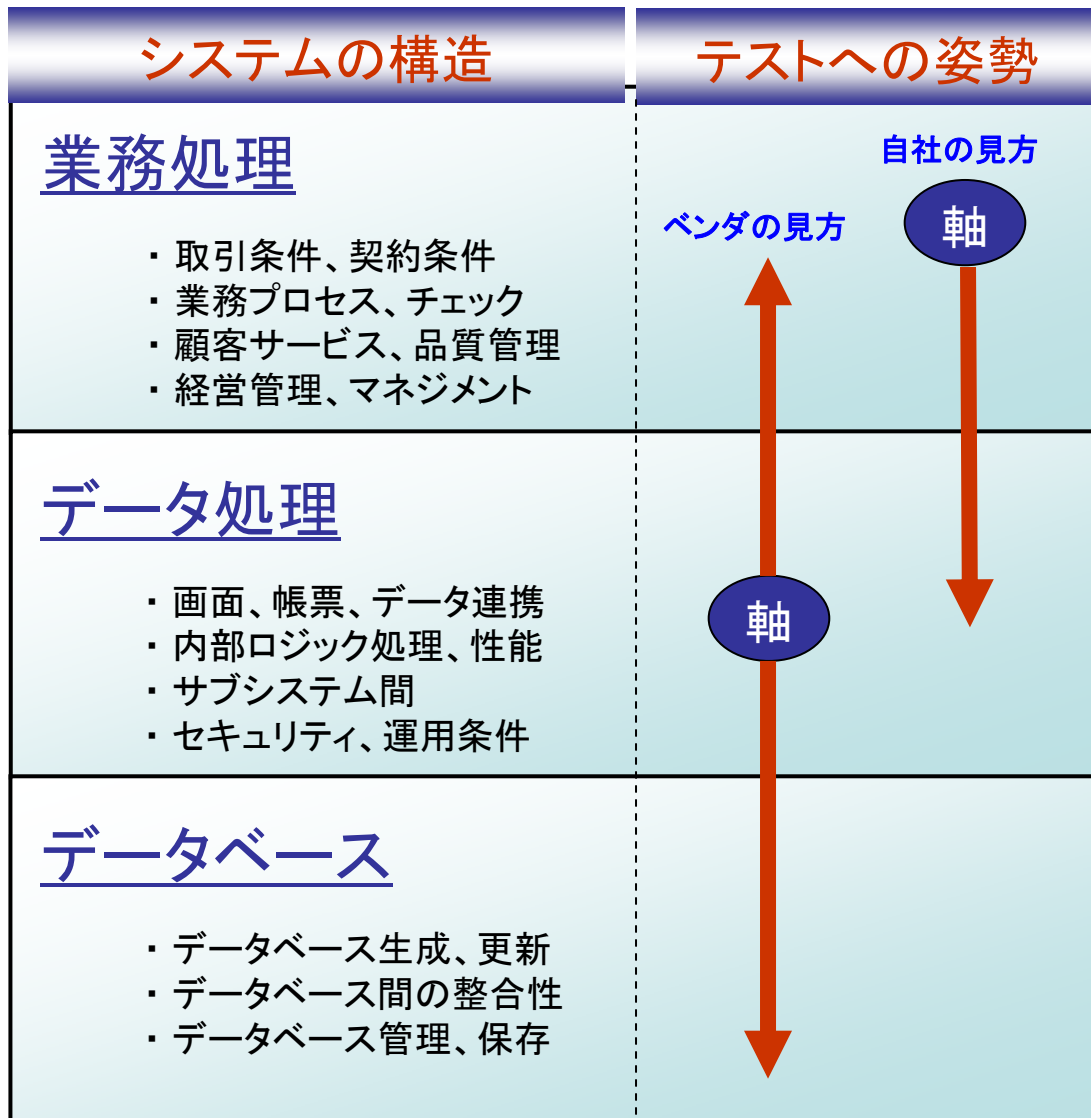
「テスト作業」と品質

内容

1. ベンダテストと自社テストの違い
2. 業務処理テストの品質確保
3. 業務処理テストの手順
4. 処理機能の集中とテスト
5. テスト計画作成の前に
6. テスト作業への対応

1. ベンダテストと自社テストの違い

- ベンダのテストの限界を知ることです。ベンダが自社の業務処理の全てを熟知することは不可能です。それを踏まえた自社のテスト取組みが必要不可欠です。



ここでは、「業務処理」という言葉に管理内容などを含めて使用しています。

テストへの姿勢

【ベンダの見方】

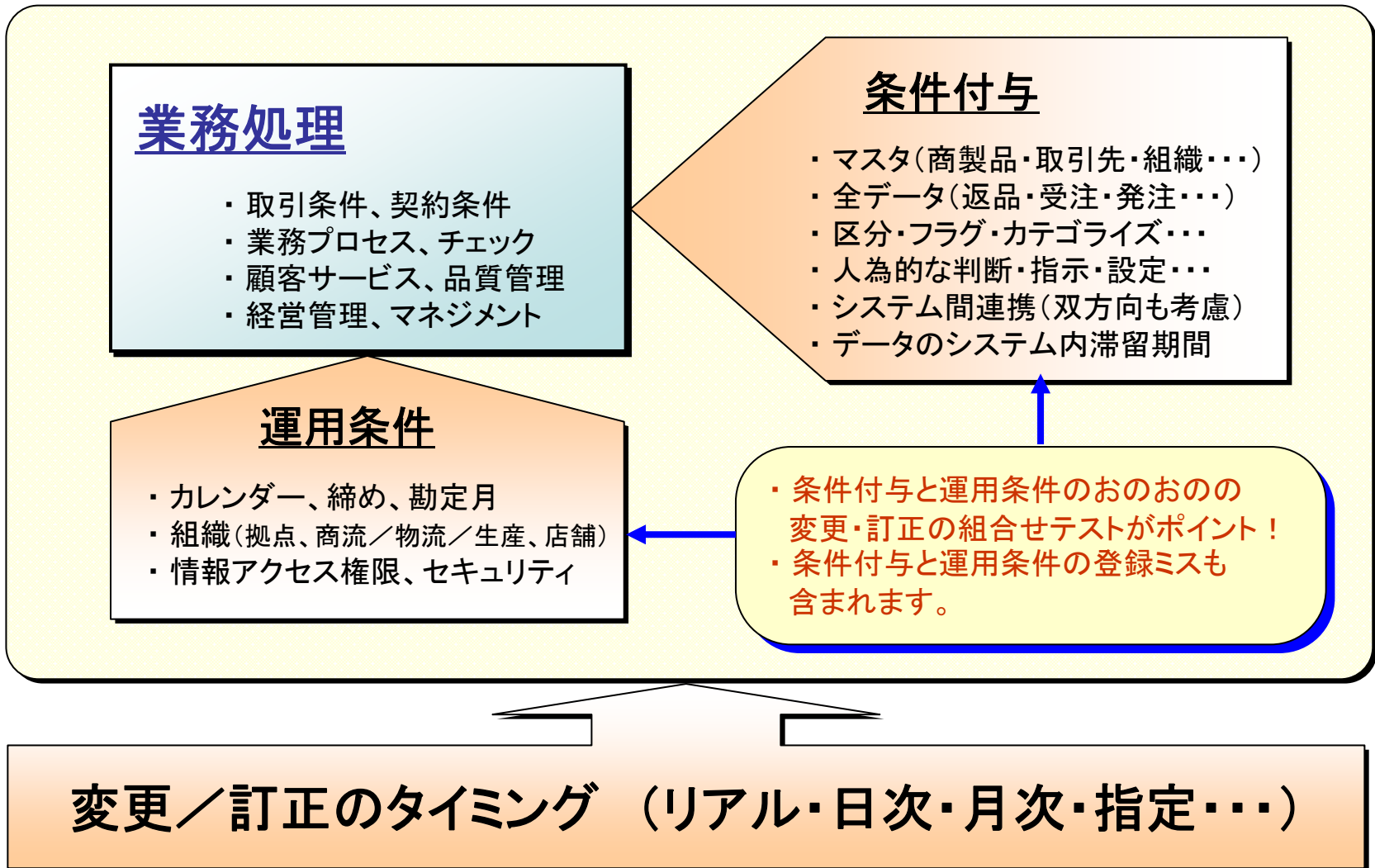
- ・ データ処理(プログラム)を軸にしてテストを行い品質を見ます。
- ・ データ処理の結果として、業務処理の品質を見ます。
- ・ この見方にベンダの行うテストの限界があります。

【自社(ユーザ)の見方】

- ・ 情報システムを道具として、業務処理の完璧さを求めてテストを行い品質確認を行います。
- ・ ここでのテストが最終品質を決めます。
- ・ 問題点の早期発見が大事です。
- ・ 業務に熟知した人のテスト参加が重要です。

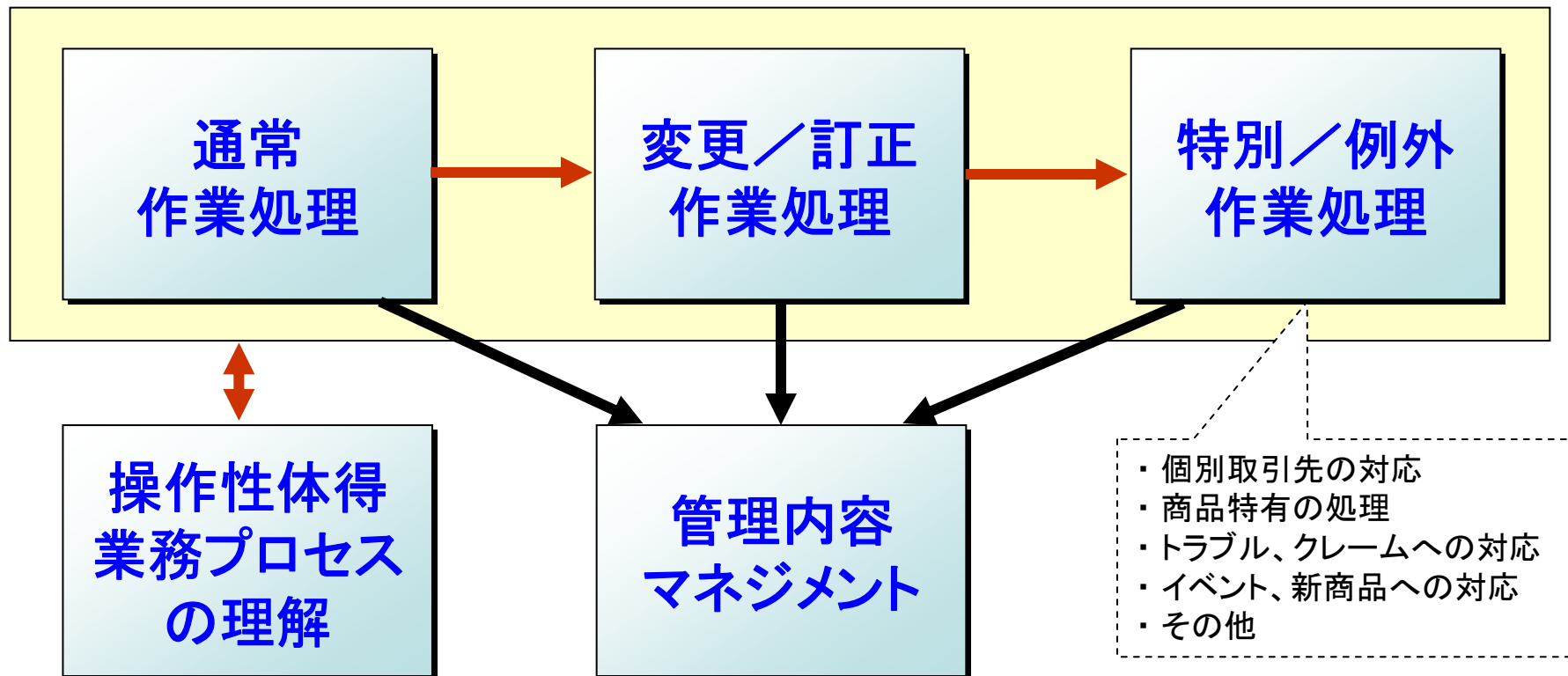
2. 業務処理テストの品質確保

- 業務処理の品質確保は、条件付与／運用条件／変更・訂正などの多種多様なテスト実施により可能になります。これに担当者のノウハウと経験が加味されるテストケースもあります。



3. 業務処理テストの手順

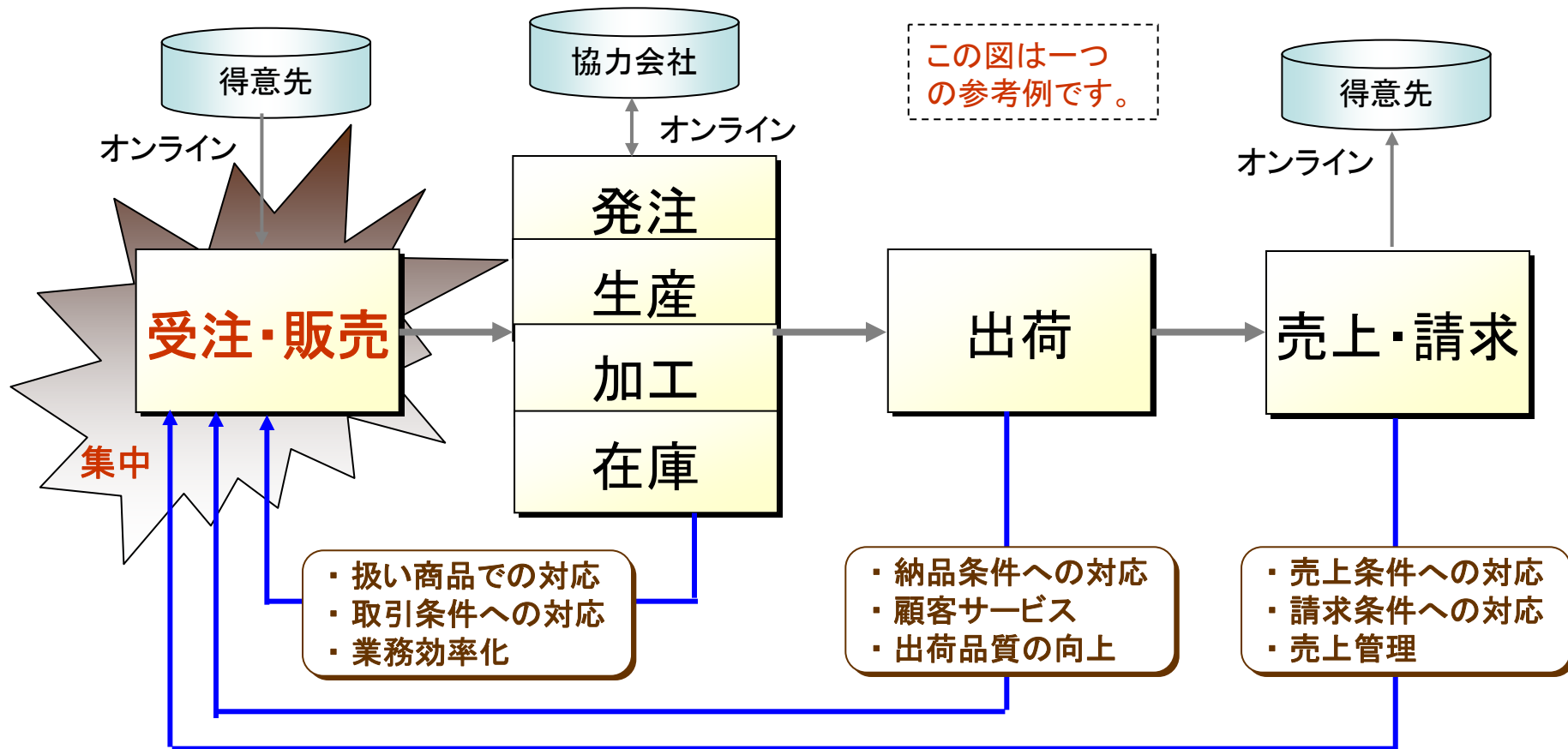
- 作業処理の確実性を保証することが品質保証の第一歩です。下記のテスト手順に応じて行なうことが望ましいです。「通常作業処理」が中途半端で「変更/訂正・作業処理」テストを行うことは有りえないです。



- 「2. 業務処理テストの品質確保」の多種多様なテストとこの作業処理における手順・内容との関連性テストが重要です。品質確保の決め手です。
- 作業処理の結果である「管理内容・マネジメント」の数字チェックも、その都度行うことです。

4. 処理機能の集中とテスト

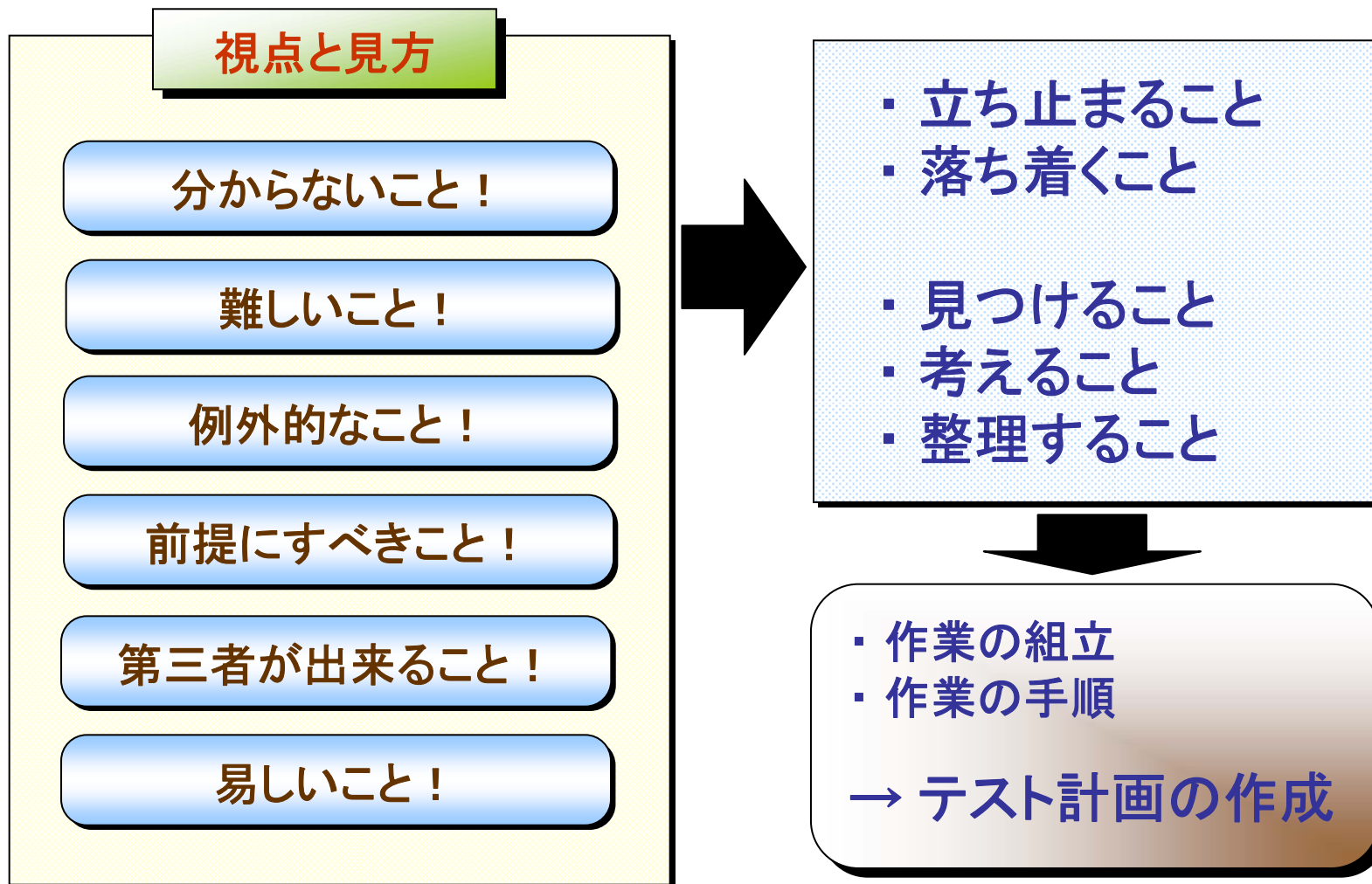
伝票処理主体から業務効率と経営管理に情報システム利用の高度化が生じています。テストもこの傾向を受けて、テストの難度アップとケース増になっています。



- 業務効率、顧客サービス向上の目的のために、システムの最初の画面処理にシステム機能が集中する傾向にあります。
- この集中した画面（機能処理）の完成度にテスト品質と進捗が左右される可能性が高いです。120%の品質確保を目指すべきです。

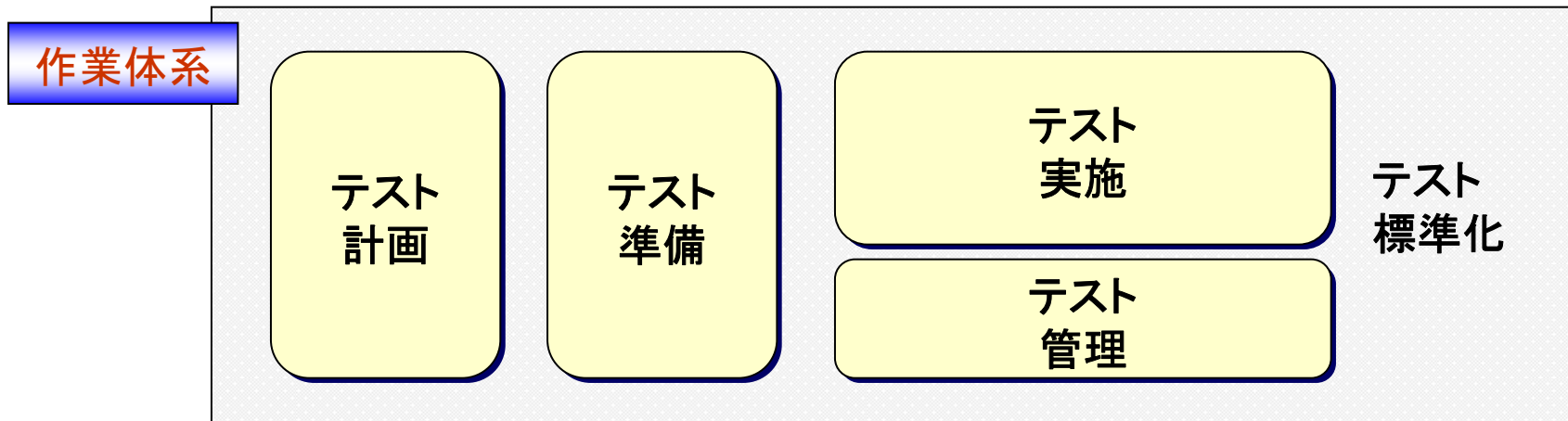
5. テスト計画作成の前に

- テスト作業は品質保証と直結しています。テスト作業そのものの品質を高めることが情報システムの品質を高めることとなります。今までの作業成果を踏まえて、ちょっと立ち止まり次のような視点と見方でテスト計画作成の前に時間をとり整理することを薦めます。



6. テスト作業への対応

■ テストの目的と範囲を踏まえて、下記のテスト作業体系と「対応ポイント」を参考にしてテスト作業に臨むことです。テスト作業の計画はベンダが作成しますが、ユーザとしての理解と検証も不可欠です。



| 作業体系 | 作業内容 | 対応ポイント |
|-------|--|--|
| テスト計画 | <ol style="list-style-type: none"> ① テスト目的・方針・範囲の設定 ② 詳細スケジュールの作成 ③ 実施体制の確立(役割分担・管理・連絡) ④ テスト実施者の適性配置と工数算定 ⑤ テスト環境の設定と資源の確保 ⑥ テスト項目とテストケースの整理 ⑦ 作業進捗と管理方法の作成 ⑧ 標準事項の作成(作業・検証・・・) ⑨ 問題管理・変更管理のルール作成 ⑩ レビューの目的と開催 ⑪ 前フェーズの引継ぎと実情把握 ⑫ 基本スケジュールとの関連性チェック | <ul style="list-style-type: none"> ・前フェーズ(作業)の実情把握 ・どのようなテストが必要かの要求 ・テスト手順の決め ・自社役割の明確化 ・ベンダーとのレビュー実施 |

6. テスト作業への対応

| 作業体系 | 作業内容 | 対応ポイント |
|-------|---|--|
| テスト準備 | <ul style="list-style-type: none"> ① テスト参加者への教育・レビュー <ul style="list-style-type: none"> ・目的、範囲、仕様の説明と理解 ・テスト環境、条件の理解 ・作業管理、問題管理、変更管理 ② テスト環境、条件の整備 ③ テスト項目とテストケースの作成とレビュー ④ 必要な管理表の作成と徹底 ⑤ 前フェーズ(作業)の成果物の確認 ⑥ テスト実施前の最終レビュー | <ul style="list-style-type: none"> ・テスト条件の確認 ・テストデータの質の保証 (実データの使用) ・テスト環境の確認 |
| テスト実施 | <ul style="list-style-type: none"> ① テスト項目・テストケースの実施 ② テスト結果の情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・正常終了の確認と検証 ・異常終了の確認と検証 ③ テスト結果のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・テストケースの発見と改善 ・ベンダとの共同 ・実施情報の収集 |
| テスト管理 | <ul style="list-style-type: none"> ① 作業進捗管理とその対応 ② 問題管理とその解決策実施 ③ 変更管理とその対策 <ul style="list-style-type: none"> ・機能、業務、技術面 ・スケジュールとの調整 ・採用可否、優先度の判断 ④ テスト計画との検証 ⑤ 基本スケジュールとの調整と判断 | <ul style="list-style-type: none"> ・原因分析と対策の早期実施 (ベンダ要望、他) ・見通しと実施対策の可否判断 |

* ベンダとの共同作業です。それに対して、自社としての役割と責任を明確にして対応することです。